

選択的レーザー線維柱帯形成術(SLT)について

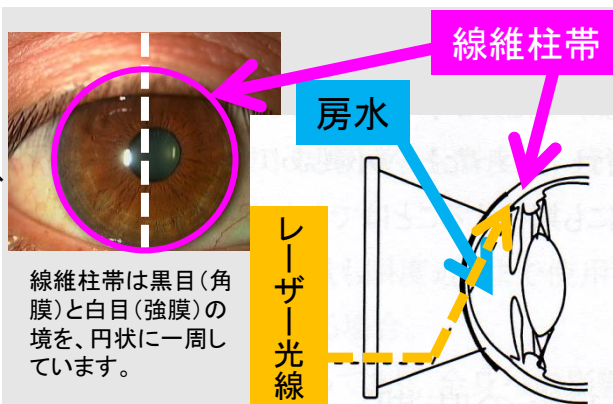
選択的レーザー線維柱帯形成術(SLT)とは、眼圧を下げる治療の中で、レーザーを使って眼圧を下げる治療方法である「レーザー線維柱帯形成術」の一つです。今回当院でもSLTを始めましたのでご紹介します。

レーザー線維柱帯形成術(LTP)とは？

レーザー線維柱帯形成術

- ①アルゴンレーザーを使うALT(algon laser trabeculoplasty)
- LTP(laser trabeculoplasty) ②ヤグレーザーを使うSLT(selective laser trabeculoplasty)

房水が出ていく線維柱帯にレーザーを照射することで、房水の排出を促して眼圧を下げる治療です。レーザー線維柱帯形成術には、一般的にアルゴンレーザーを使うALTと、ヤグレーザーを使うSLTがあります。線維柱帯は層状の網の目構造をしており、そこに異常な物質が溜まると房水の排出が悪くなります。そこで、レーザーを線維柱帯に、適当な間隔で照射することで、房水の排出を促すと言われています。



ALT、SLTともに眼球表面に専用のコンタクトレンズを乗せてレーザーを線維柱帯に照射します。10分程度で終わります。外来通院で治療が可能です。

ALTとSLTの違いは？

ALTは、従来から使用されているアルゴンレーザーで照射する方法です。アルゴンレーザーで照射した場所は熱凝固で収縮・変性しますが、間隔をあけてレーザーを当てることで、照射間の組織が引き伸ばされて網の目が広がり易くなるため、房水が排出しやすくなるという理屈です。

SLTは、YAGレーザーを用いてALTと同じように線維柱帯を照射しますが、ALTと異なる点は、照射部位を熱変性させずに異常物質を減らすため、同じ場所に何度も繰り返してレーザーを打つことが出来る点です。

眼圧下降の効果の違いは？

ALT、SLTともに未照射部への眼圧下降効果は同様ですが、SLTは一度照射した場所でも、何度も繰り返してできる点がメリットです。ALTは組織の熱変性を起こすため、一度照射した場所に再照射しても眼圧下降の効果が少ないと考えられています。レーザーでの眼圧下降は眼圧が劇的に下がるわけではありませんが、特にSLTは繰り返し照射することで長期的に眼圧をやや下げる効果が期待できると言われています。

いつ行うものですか？

初診で行う場合もあれば、投薬で眼圧下降が不十分の場合に追加で行うこともあります。それでも更に眼圧を下げた方が好ましい場合には、メスでの手術を検討する事になります。